2007 HAZKI 浴衣コレクションを発表

- 新潟・十日町の老舗着物メーカー「根茂織物」とコラボレーション、伝統紋様を復刻・リデザイン -

WAGU

WAGU（東京・目黒）は、型染めを主力とする十日町[＊補足1]の老舗着物メーカー根茂織物株式会社[＊補足2]の協力のもと、初めての「HAZKI」の浴衣コレクションを発表します。

今回のコラボレーションでは、「涼を楽しむ大人の装い―伝統的な紋様を洗練された色とこだわりの生地で―」というコンセプトのもとに、全 10 柄を各 2 色づつで展開した計 20 柄を発表します。

今回のコレクションでは、根茂織物が保存する 1000 枚以上にのぼる伊勢の型紙[＊補足3]から数十枚を選び出し、その紋様をもとにリデザイン[＊補足4]。それぞれ紋様ごとに 1 色については、白黒を基調としたモノトーン浴衣として展開し、もう 1 色については、伝統的な紋様がモダンで新鮮な印象に映るように洗練された色使いで打ち出します。

生地には、綿紅梅と綿麻スラブ[＊補足5]を使用し、半襟や足袋を着け夏着物のような感覚でも楽しんでいただけるような浴衣に仕上げました。

既に、1 枚は浴衣を持っているものの、2 枚目の浴衣は反物からお仕立てしたいと考えるこだわりをもつ 20 代後半から 40 代までの大人の女性をターゲットとしています。
（＊下線部の補足情報につきましては、別紙をご参照ください。）

― 概要 ―

【価格】
反物： 上代価格 33,000 円（税抜）
【柄展開】
10 柄 × モノトーン 10 色
× カラー 10 色
＝計 20 パターン
【素材】
綿紅梅・綿麻スラブ地
【備考】
発表・販売会を「ころもや」（東京都中央区日本橋堀留町 2-1-11・TEL03-3663-4704 ）にて、開催する予定です。（5 月末または 6 月を予定）

― この件に関するお問合せ先 ―
WAGU 久山（くやま）・鳩谷（はとや）
e-mail：hazki@wagu.jp URL：www.wagu.jp
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 3-12-16-206
TEL：03-3760-3561 FAX：03-3358-8996

補足１● 着物業界における新潟・十日町の意味合い

日本有数のきもの総合生産地として名を知られる新潟・十日町。その歴史は、1200 年前の飛鳥・天平の時代から野生の苧麻（ちょま）を素材とした麻布の生産が盛んに行われたことに始まります。雪深い地方ゆえ、冬の間、家の中で糸を撚り、布を織るという仕事こそ、この地方ならではの生業になったと言います。

江戸時代には、幕府の御用達に指定された「越後縮」などを生産し、武士・上流階級に広く普及した織物を生産。その後、明治時代には、全国で爆発的な人気を得た「明石ちぢみ」を生み出し、着物業界の発展に大きく寄与しました。「十日町小絣」「マジョリカお召」といわれるような新しい織物を極めることとともに、昭和 30 年代から染めの生産体制も整えるところが増え、分業で生産されることの多い着物の業界の中で、染織複合産地として、現在では京都に次ぐ生産地として日本の着物業界を支えています。

補足２● 根茂織物株式会社

根茂織物株式会社

http://www.niks.or.jp/%7Enesige/index.htm

【事業内容】きものの企画・染め加工・問屋への卸売り

【取扱品目】手描友禅、本蒔蝋染、型絵染、江戸紅型、江戸小紋

根茂織物は、昭和 13 年に撚糸業を興し、昭和 25 年に株式会社として登記。

十日町自体が染色の技術を導入した時期に、染め分野を導入し、着物の一貫生産体制を確立。昭和 56 年からは、日本橋の堀留にも東京出張所を出店。染帯や紅型小紋染めを商品に生産。現在も東京店では、問屋を通さない産地直販の着物を適正価格で販売しています。

補足３● 伊勢の型紙って何？

着物の型染めに用いる型のひとつで、神業ともいうべき様々な手彫りの技法で、渋紙に文様を透かし彫りしたもの。（渋紙：和紙に柿渋で加工した、強靭で水に強い紙）１ｍｍにも満たないような線を切り間違えただけで型紙として使用できなくなってしまうため、彫りの技工職人たちには、高度で熟練した技術と忍耐が要求されます。そのため、他の伝統産業と等しく、最近では、技術をもった職人が減ってしまっていることもあり、型紙自体が芸術品として脚光を浴びています。

補足４● 今回の浴衣コレクションに使用した紋様、またリデザインについて

伊勢の型紙に彫られている紋様は、染織をはじめ、建築、陶芸など様々な美術工芸品の中で伝承され続けてきた日本の大きな資産です。何代にも渡る職人や絵師の手を経て生まれた、すばらしき意匠の数々を見るたびに、その創造性、技術力また構成力のすばらしさには驚嘆させられるばかりです。

今回、ＷＡＧＵでは、既に使用できなくなってしまっていた型紙を修正・復刻したり、新たな解釈として絣のような加工を加えるなどの「リデザイン」を施すことにより、ＨＡＺＫＩの浴衣コレクションとして発表させていただきました。

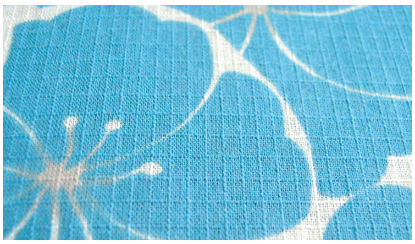
紋様のもつ魅力が高まるようにと私たちなりの解釈をし、生地や色にこだわったことで、伝統の意匠がより新鮮な印象で打ち出せるよう心がけました。着物として纏った女性自身の気分が高揚し、その人の魅力が惹きだされるような浴衣になっていればと思います。

「既に１枚は浴衣を持っているけれど、今年はもっと着物のような感覚で浴衣を楽しみたい。」そんな大人の女性の願望を満足させ、また同時に、着物に対して更なる好奇心を抱いていただけるきっかけの１枚になればと考えています。

補足５● 使用生地：「錦紅梅」と「綿綿スラブ」の特徴

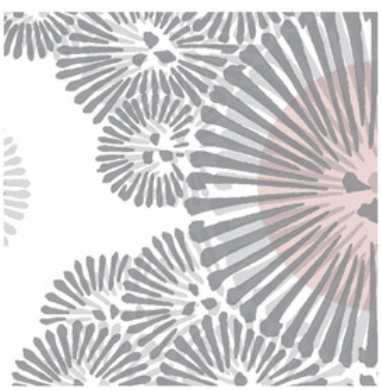
綿紅梅

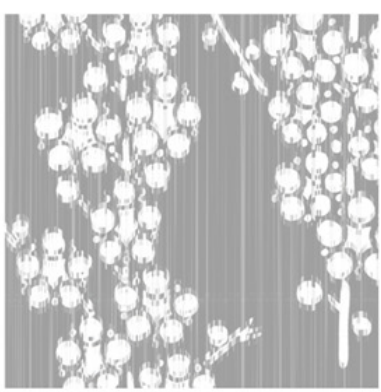
織物の縦糸と横糸の組織の中で、細い糸の間に一定間隔ごとに太い糸を織り込み、格子紋様を浮き出させた、夏の浴衣の高級織物です。布の表面に高低差ができることによって肌にくっつきずらく、薄く透け感があるため見た目にも清涼感のある生地です。



スラブ地

スラブ糸（繊維の束を一定間隔で撚りこみ太さが均一ではない糸）を織り込むことにより、生地の表面に節のような斑ができる生地。今回使用しているものは綿と麻の交錯織のため、ざくっとした麻独特の風合いがあり、紬のような触感があります。





HAZKI

HAZKI